



『新しい変化と回復の始まり』

聖書:ガラテヤ人への手紙 2章20節/ 暗唱聖句:マタイの福音書7章12節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族の皆さん！一週間、主の平安の中で元気でしたか。子ども、学生のみなさん！進級、入学おめでとうございます！新しい年度の始まり、新しい学校の生活の始まりが先週から始まっています。先週我々は共にイエスキリストの祈りの習慣を通してより良い習慣を身につけるためにどうすれば良いのか共に学ばれました。これからも新しい変化と関係の回復のために、どうすれば良いのか共に主の御言葉を通して学んで行きたいと願います。みなさんは新年度どんな良い変化を期待していますか。すべての人々との関係の回復、家庭の回復、教会の回復などはどこからはじまると思いますか。自分がまず変わることから始まるべきだと信じます。夫婦の間に問題があるとき、年とった夫婦でもまだ私たちのような若い夫婦でも一つの共通点があることに気づかされます。それは夫、もしくは妻が自分のスタイルで相手愛するがゆえにおこる結果でした。

私自身も自分のスタイルで、自分のやり方で妻を愛してきたことに問題があることがわかりました。私自身が願っていたことをひたすら要求してきたことがわかりました。自分の話を妻や子供たちがよく聞き入れてくれないことが問題だと思っていた私に実は問題があったのです。

<1. 自分の変化と回復>

愛する信仰の家族のみなさん!私たちはいつも相手が変わることを願います。私自身も同じです。私の妻が、私の子供たちがこういうふうにならなかってほしい、私たちの教会があのように変わってほしい、周りがこのように変わってほしいなど、たえずもっているのではないのでしょうか。きっとみなさんの中でも自分の家庭が、自分の子供が、教会が、周りの人々がこのように変わってほしいと願った方がいると思います。しかし大切なのは他人ではなく、自分自身がまず変わらなければならないことがわかりました。自分自身は変わらないまま、自分自身は変えられようと努力すらしてないのに、回りや環境や他人の変化を期待し祈ることは決して神様の願われることではないことがわかりました。自分自身が変わらなければ周りの人々の変化はあくまでも限界があります。

愛するみなさん!まことの信仰と占いの違いはなんだと思いますか。占いは自分のお金を出して、神のこころを身分が願っている通り、期待している通り、動かし自分が祝福されたがることです。しかし聖書はこのような人を‘クリスチャンつまり、信仰ある者’だと言いません。聖書が教えて下さっている真の信仰は何ですか。それは簡単です。それは**神様が願う通りに自分が変ること**です。神の御心通りに自分を変え、従う事が信仰生活ではないのでしょうか。まことの信仰は神様の願われている通りに自分が従って変えられます。自分が今まで正しく信仰を持って信仰生活をふさわしく行っているのかどうかは今までの聖書通り自分自身の変化があったかどうかにあります。

マタイの福音書 7章 12節には、関係の回復のためには必須不可欠な大切な御言葉であり、この箇所をイエス様の**黄金律(Golden Rule)**だと言われています。**“それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。(マタイ7:12)”**

ここで律法であり預言者ということは旧約全体を意味します。新約聖書を読むとき律法とか預言者という単語が出て来ると‘あ、これは旧約を言っている言葉なんだ’と理解してもおかしくはないと思います。

ですから今日の本文の御言葉つまり、**何事でも自分にしてもらいたいことがあればそのようにしてあげること!**これが旧約全体をまとめる関係を守る、全ての関係を回復させる大原則だったことがわかります。

短いこの御言葉には何よりもすべての関係が守られ、回復されたために、他の人にしてもらおう事を期待し、願う前に、まず自分が願う事、期待している事を他人にそのようにする事を教えて下さっているのです。まとめると、他人の変化を期待する前に、自分が自らの態度、姿勢、行いの変化が先であり大切だという意味ではないのでしょうか。全ての変化と関係の回復への聖書の原則と神の知恵を一言で言うと“他人によるのではなく、自身にその鍵があるよ。”という内容であり

ます。

<1. どのように自分の変化と回復が出来るのか。>

ガラテヤ書2：20では、“私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。”

するとみなさん！ どうすれば私たちが神様の願われるとおりに変えられることができるのかがわかります。

これも簡単です。それはイエス様と一つになることです。

“だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。”（コリント人への手紙第二 5:17）

今みなさんはイエスキリストをまことの救い主として受け入れていますか。イエス様を信じることはイエスを救い主として受け入れることです。イエス様と一つになることは自分が死ぬことだと言います。イエス様は我々の全ての罪赦しのために十字架にかかって死んで下さった事を覚え、われわれも十字架に自分自身を死なせることです。若い学生たちのために言いますが、ここで死ぬことというのは実際死ぬとか、自殺をするみたいな事は決してありません。生きている自分の淫乱な人間的な思い、変わろうともしない悪いくせ、耐え続く自分の欲張り、罪の習慣などを殺すという意味であります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ 死んでしまうと遺体だけが残ります。遺体はいくらたたいてもいたくありません。ですから霊的に自分自身は死んで主に自分の人生をゆだねればゆだねるほど私たちは自由になります。主にあってすべての痛みから自由になります。イエスキリストの十字架上の死によってそれを信じる者は罪の奴隷ではなくあらゆる暗闇を打ち勝ち、いまはもはや自由にされたものとしてこれからは生きることになるということです。使徒パウロはこの内容についてこう語っています。ローマ人への手紙6章3-8節です。

“それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。5 もし私たちが、キリストにつき合われて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。8 もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることにもなる、と信じます。”

この御言葉の意味は何ですか。結局人が古い自分、罪の中の自分を変えられるためには、ただの自分の決断、努力によるのではなく、イエス・キリストを受け入れ、イエスキリストの命と力によって自分を変えられ、キリストにあって新しく生ける事を教えて下さっています。人はなかなか自分を変えようとしません。しかし、イエスキリストを受け入れ、信じることによって、これからは自分に内主される聖霊の神が以前の古い自分や罪の自我には死なせ、これから主なるキリストが自分の人生を変えさせ、新しい人生の生き方で導いてくださると約束されているのです。

人間の脳にはおよそ 6 兆（ちょう）から 100 兆の細胞があると言われます。この脳細胞は短ければ 2-3 時間内に死ぬそうです。ところがこの脳の細胞が死ぬとかならず新しい細胞が造られます。しかしこの脳の細胞はストレスを受けると反乱（はんらん）を起こし、死ぬべき細胞が死ななければ大問題が起こります。死ぬべき細胞が生き残るとかえって悪影響を与えますが、この細胞を医学的に言うとガン細胞だと言います。

信仰の原則も同じです。主にあって死ななければならぬ古い、頑な自分自身が生き残ろうとするとよりキリストにある新しく豊かな人生として歩める事を妨げるようになる事を覚えておきたいと思います。結局様々な問題の解決は他人とか、環境よりも自分が変わり、関係を回復させていけば、解決出来る事が多いのではないのでしょうか。

例)ローマのコンスタンティン皇帝の母であったヘレナという方はイエス様を信じてから、イエス様はピラトの前に立た

された時の階段の部分だけをわざわざ取ってローマにまで運んで来てよく保管したそうです。そしてその以後から、人々はこの階段にひざで上がると、まことの悔い改め、罪の赦しを頂けるみたいな伝説が伝わりました。長らく歳月の流れた後、ドイツのマルティンルータルという方がここまで来て自分の全ての罪を神に赦して頂くために、涙流しながら、ひざでその階段を一つずつ上りました。しかしながら、心にはまことの喜びが湧いて来ません。その瞬間、彼の祈りの中、神様の御言葉を思い出しました。

‘義人は信仰によって生きる’と御言葉でした。そしてルータルは自分がひざまずいたその階段から立ち上がって歩いて降りて来たそうです。自分が罪から救われ、回復され、変えることはこのような膝で階段上りのような人の努力や苦勞の行いによってではなく、ただイエスキリストを信じる信仰によって救われ、変えるのだ！という事を悟られたからです。その後から神様は彼を大いに用いてくださってヨーロッパや世界で真の宗教改革がおこされたのです。

みなさん！結局、救いはルータルの自己変化から始まりました。そのルータルは日々このように信仰の告白を神様にささげたそうです。“わたしは日々日々洗礼を受けています！”この話の意味は“私は毎日主にあって死にます”と言う意味でした。愛する皆さん！洗礼（バプテスマ）の意味は何ですか。何方がローマ人への手紙6：8－11を読んでくださいませんか。

“もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることに成る、と信じます。9 キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。11 このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。イエスキリストを主として受け入れた者がイエスキリストとともに死んで信じる前の自分を捨てることです。 “サウロが変わってパウロになった時から神様の宣教、主の御業が彼を通して始まりました。パウロもこのように告白しました。 “わたしは日々日々死にます” と。

愛する皆さん！イエスキリストを信じている我々は主の者です。主のものは自分は死んでただ主にしたがうものです。自分の変化はすべての事が明るく変えられるようなものです。

皆さんもよくご存知のようにまだ私の子供たち5人がいますが、最近妻の話によると、私は子供たちに相当怒りっぽく話してたそうです。妻から“あなたは最近子供たちに話す時かなり厳しすぎるのではない？”といわれました。なぜそうだったのか正直に考えて見たら父親である私の願う通り、考え通り、子供たちが聞いてくれないからでした。

その話を聞くと、すぐ自分は子どもたちのためなのにと悔しい気持ちがすぐ生じますが、不思議なのは、子どもたちのために、子育ての智慧を求めながら祈ると、いつも心と思いがこう変わるように主が導いてくださいます。‘鄭師が否定しても、子どもたちはみんな誰よりも親であるあなたと一番似ているのではないか。まさに私にそっくり似ているのにどうして私がそんなに子どもたちに無理やりに変えようとするのか。

もし私に似ていたわがあなたの子供たちが足りないのであれば、それは父が足りないからという原則にめざめることができました。子どもたちにもっと優しく言いなさい！とよく叱ってましたが、自分が優しく言わないのに、どうして一番自分と似ている子どもたちが変わる事を期待するのか。矛盾ではないのか。’とそして、主の結論はいつも同じです。

‘だれかに変わる事を望む前に、まず、あなた自身を変えなさい。私が変われば子どもたちが、すべても変わります’ と。

一番聖書的で、福音的な神学を私たちは改革主義神学だと言われています。この改革主義をアメリカやヨーロッパではリポームド (Reformed) だと言われますが、その意味は ‘再び立たせる’ という意味です。我々もこの意味をしっかりと覚えて実践していきたいです。他の人を立てる前、まず自分を正しく立て直さなければなりません。自己中心から変わって行くことこそこれが真の信仰の改革の始まりであり、関係の回復への近道であると信じます。

愛する信仰の家族の皆さん！もし今も自分の変化より他の人の変化を求めているではありませんか。今も自分の変化には努力しないで、ただ他の人が変わるようにと求めているではありませんか。それは結局言い争いや葛藤や不満だけを残してしまうのです。一時的には回復されたように見えるかもしれませんが、自分が変わらないと真の関係の回復はできないのです。

まず自分自身が変わって、まず自分自身が御国を所有しなければなりません。自分の変化と回復の経験を通して主の喜びと平安を味わうことができるのです。これが真のクリスチャンの聖化だと思います。これが真の信仰の成長だと信じます。救いは一回でも充分ですが、自分の変化によってますます神様が喜ばれる聖化というのは私たちが一生涯引き続いて果たさなければなりません。

自分自身が変わると家庭が変わります。自分自身が変われば教会が変わります。自分自身が変われば真の回復が与えられます。ヨハネの福音書12：24です。“まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみかたです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。”

今日主が教えてくださったこの御言葉が我々の今日、また今週、今年度、一生涯の間、忘れられない一番大事な祈りの課題になりますように心からお祈り申し上げます。志を立ててもう一度決断しましょう！今週、今月今年も、キリストイエスにあって教会の私から初めみなさんお一人お一人の変化を通してすべてが回復され、新たに変わられて行く全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となり、恵みと祝福の通路となりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。

<祈り課題>

1. 神様の御前で自分の変えられるべき部分はどこなのか気づかされるように祈りましょう。(自分の弱さ、自分の間違っていたところ、新たにされる場所など)
2. 誰か(夫婦、家族、教会の家族、子ども、親など)にしてもらいたいことは何ですか。そうしてもらうためにまず、自分は何をやってあげるべきでしょうか。
3. 今神様に示されている回復されるべき関係はどんな関係、だれとの関係であるか考えながら祈りましょう。
4. クリスチャンプレイズに属している一人一人がキリストにあってまず自分が変わり、家庭が変わり、教会が変わり、周りが変わって行く事を期待し、信じて、実際行い、取り組んで行く事が出来るように祈りましょう。

